



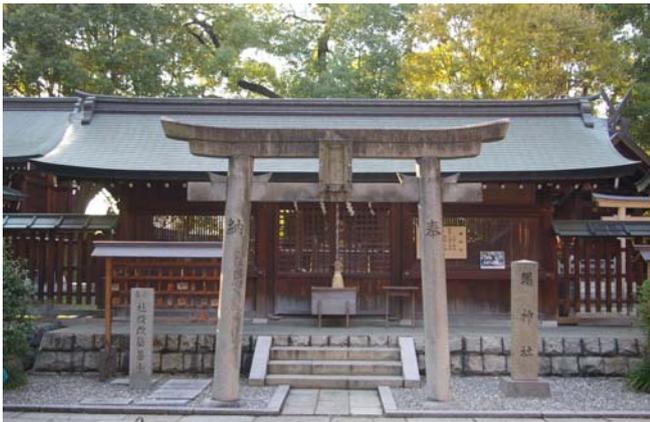
衣川 実介

『 韃 (ふいご) 神社参拝記』

江戸時代の中頃、大坂天満の韃町にたくさんの韃職人が集まっていた。中でも吹子屋助右衛門とも大坂屋助右衛門とも呼ばれる韃職人の家は数代に亘って韃を作り、元祖ではないかと言われていました。その、天満から約4km谷町筋を南へ下ったところ現在の天王寺区生玉町に生国魂(いくくにたま)神社があり、境内に韃神社が祀られています。

2008年12月2日、所用で大阪に出ました。前から一度参拝したかった韃神社に行きました。银杏の黄色に染まった鳥居と本殿が参道から見えます。この生国魂(いくくにたま)神社は『いくたまさん』と呼ばれ庶民に親しまれています。祭神は生島(いくしまの)大神・足島(たるじまの)大神・大物主(おおものぬしの)大神です。境内には一風変わった社、浄瑠璃神社(芸能上達の神)、家造祖(やづくりみおや)神社名の通り土木建築の神様など、その中に全国唯一の韃神社(金物・カマドの神)があります。韃神社の祭神は天目一箇神(あめのまひとつのかみ)、石凝杼壳神(いしこりどめのかみ)香具土神(かぐつちのかみ)です。

天満韃町の職人達が、その商売の繁盛を願って韃神社を祀ったと言われています。拝殿から覗くと、神殿の前庭にはふいごを置く台と炉、金床がしつらえられています。最大の祭礼は11月8日のふいご祭りで、拝殿の前に何年か前、刀鍛冶が刀の鍛錬を行った様子を記録した写真が残されていました。



韃職人



韃神社の絵馬



天目一箇神 (あめのまひとつのかみ)

天目一箇神は天津彦根命の子で鍛冶の神。神名の「目一箇」(まひとつ)は「一目」(片目)の意味で、鍛冶が鉄の色でその温度をみるのに片目をつぶっていたことから、とされている。

石凝杼壳神 (いしこりどめのかみ)

「石凝」といういかにも固そうな名前はこの女性神は、三種の神器のひとつとして有名な八咫鏡を作った神である。

香具土神 (かぐつちのかみ)

記紀神話における火の神。神産みにおいてイザナギとイザナミとの間に生まれた神である。火の神であったために、出産時にイザナミの陰部に火傷ができ、これがもとでイザナミは死んでしまう。その後、怒ったイザナギに十拳剣「天尾羽張(アメノオハバリ)」で殺された。

参考図書

鉄山必用記事 現代語訳 館 充 丸善(株) 平成13年6月

むらの鍛冶屋®

『ふいごの話』詳しくは以下のホームページをごらんください。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/huigo/index.htm>

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/bike/>
ryou@memenet.or.jp



何でもお気軽にお尋ねください!!